式　　　辞

紅葉の美しい季節になりました。

本日、ここに元千葉県高等学校校長会会長　岡野照先生、校章デザイン　国画会会員、国展審査委員のサイトウ良先生はじめ多くのご来賓の方々にご臨席賜り、千葉県立松戸向陽高等学校の開校記念式典を挙行できますことを心から感謝申し上げます。

本年3月11日に起きた東日本大震災は、多くの犠牲と困難を私たちに与えました。復興と原子力事故の終結に向けて険しく長い道のりを歩まなければなりません。

松戸向陽高校は、こうした中で普通科6学級、福祉教養科1学級全学年２１学級の大きな学校としてスタートを切りました。4月6日、私は二人の生徒会長と共に、「校訓に向学･自立・共生を掲げ、当たり前のことがあたりまえに行なえる生徒であり、教師であり、学校であること、よりよい学校を創造すること」を誓い、入学式では代表生徒が、「スクールカラーのオレンジ色のように明るく、くじけず何事にも前向きに考えられる生徒を目指し、日本の再建の担い手になれるよう悔いの残らない3年間を過ごします。」と力強く宣誓しました。

また、開校記念メッセージ集において、矢切高校の第10代校長　渡辺先生は次のように語られました。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

「向学･自立･共生」という校訓は、この度の震災という困難を乗り越え、これからのあるべき姿を考えるためのキーワードのように思えてなりません。

私は、この3つの言葉を次のように考えます。

「向学」どんな時でも、粘り強く学び続けようとする志を持ち、人間として社会人として自ら向上していこうとすること。

「自立」社会的人間として、自分の足でしっかりと立ち、自らの力で豊かで充実した社会生活を営むこと。

「共生」「向学」の精神、「自立」しようとする力を進んで社会に生かし、異なる他者を尊重し、力を合わせ共により豊かな社会を築こうとすること。

・　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

私たちは今、生徒･職員･保護者が手をつなぎあい、矢切地区、秋山地区はもとより地域の中学校、高等学校、また福祉施設等関係する多くの方々のご支援をいただきながら新しい学校づくりに一歩ずつ進んでおります。

統合に向けて、様々な課題を解決し、何度も何度も話し合いを重ね二つの文化を紡ぎ合い、新しい道をつけてくださった矢切、秋山両校の渡辺、佐々木校長を初め、多くの教職員、保護者の皆様、同窓生の皆様のご尽力によって、松

戸向陽高校はできました。

また、校舎内外のペンキ塗り、ワックス掛け、ありとあらゆる環境整備で少しでも明るく綺麗な学校を用意しようと暑い夏のさなかに、文字どおり汗を流して作業に当たった鶴岡事務長、佐藤さんを初めとする多くの教職員の努力も皆様にお伝えしなければなりません。

千葉県立松戸向陽高等学校は、手作りの学校です。

秋山町会長さんは地域の行事を本校で開催し、学校便りを回覧板と共に地域に届け、理解と協力を広げてくださる力強い応援団長です。また、生徒募集で力を貸してくださる中学校、学校運営に助言を下さる高等学校、地域に支えられ、統合という難しい事業を果たすことが出来ました。

多くの皆様に向けて、私たちは、ここに次のことを誓います。

私たち松戸向陽高等学校は、一人一人が自分らしく命を輝かせ、地域社会に役割を持って根付き、「向学･自立･共生」の校訓をもとに、互いに学び合い、鍛え合う学校を創造します。太陽に向かい大輪の花を咲かせる向日葵のように常に周りに温かさをもたらすことのできる福祉マインドをもった生徒の育成に努力することを誓い、御列席の皆様のご健勝を祈念し式辞といたします。

頑張りましょう。

平成 23 年 11 月 24 日

千葉県立松戸向陽高等学校長
佐久間　　敦子

＊文中の生徒名は二人の生徒会長、（新入生）代表生徒という表現に直しています。